目　　次

1　提案趣旨 …… 1

2　提案内容 …… 1

⑴　研究の概要

⑵　研究の実践

⑶　研究の成果

3　今後の課題 …… 7

⑴　組織体制の維持

⑵　対象生徒の増加に対する対応

⑶　有意義な会議の実施

校内適応指導教室の運営について
～不登校予防に係る一対策として～

提案者　栃木市立栃木西中学校教諭　　鈴木　雅人

１　提案趣旨

本校では、不登校や登校はするが自分の学級に馴染めずに授業が受けられないという生徒がおり、特に、不登校生徒が増加することで個々の生徒への指導をどうするかが大きな課題となっていた。平成25年度までは学年を中心に教職員が熱心に個々に対応してきたが、学年対応だけでは限界が生じた。また、個別の指導計画も不十分であり、方向性が見えず、場当たり的な面もあり、登校はしたが何を学び、到達目標はどこにあるのかなどが不明確であった。

そこで、平成26年度からは全職員が個別の指導計画のもとで共通理解を図り、組織的に対応してくことが望ましいと考え、校内適応指導教室（とまり木教室）を設置した。

今回は、「校内適応指導教室の運営について～不登校予防に係る一対策として～」というテーマのもと、多くの学校で抱えている不登校に関する問題に対応していくために、本校の校内適応指導教室（とまり木教室）で実践してきた取組について提案したい。

２　提案内容

⑴　研究の概要

ア　ねらい

学級集団不適応生徒に対し、段階的に所属学級をはじめ適切な学級に入れるための組織的な指導・支援のあり方を研究する。

イ　組　織

①　特別支援教育推進委員会（とまり木推進委員会）

校長、教頭、教務主任、学年主任、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、学級担任、特別支援学級担任、養護教諭、特別支援教育支援員、スクールカウンセラー

②　授業担当

全職員を対象とし、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事と相談の上、教務主任が決定する。

スクールカウンセラー（必要に応じ個別相談）

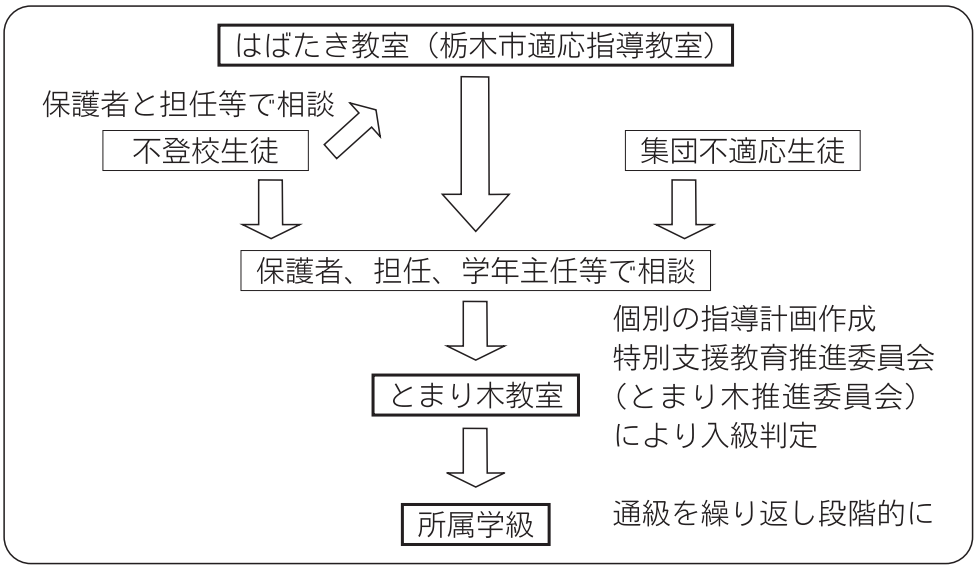
③　とまり木学級担当者

特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、特別支援教育支援員

④　会　議

委員会は、月１回の会議を設け、生徒個々の変容を確認する。また、必要に応じて随時会議を設ける。学年単位で随時情報を得て記録しておく。進行は生徒指導主事が行う。

ウ　教室構想



⑵　研究の実践

ア　適切な教室の設置

栃木市にある適応指導教室の名称が「はばたき」ということから、校内の適応指導教室名を「とまり木」とした。あくまでも一時的な休息の学級という意味をこめた。

校内適応指導教室（とまり木教室）は、特別支援学級に隣接している。軽度発達障害や情緒障害あるいは低学力の生徒が不適応を起こしている場合が多いが、特別支援学級への入級をすすめると、保護者や本人が拒否反応を起こす。そのため、特別支援学級での教育活動を理解し易くするためにあえて隣接設置した。

イ　学習指導ができる環境整備

①　学びの保障が最大の難問であった。中学校では、専科制であることから誰もがどんな教科でも教えることは免許法に照らし合わせると不可能である。そこで、とまり木教室への出授業者を教師用時間割に組み入れ分担し、特別支援教育支援員と連携しながら授業を行っている。以下は、今年度の時間割である。

	月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
1 校時	社会 （戸田Ｔ）	英語 （白根Ｔ）	体育 （諸橋Ｔ）	数学 （田子Ｔ）	社会 （安部Ｔ）
2 校時	数学 （鈴木Ｔ）	理科 （教頭Ｔ）	数学 （鈴木Ｔ）	英語 （白根Ｔ）	国語 （石塚Ｔ）
3 校時	英語 （白根Ｔ）	体育 （諸橋Ｔ）	理科 （教頭Ｔ）	社会 （戸田Ｔ）	理科 （教頭Ｔ）
4 校時	体育 （諸橋Ｔ）	数学 （鈴木Ｔ）	技術 （松本Ｔ）	数学 （鈴木Ｔ）	家庭 （齋藤Ｔ）
5 校時	数学 （田子Ｔ）	社会 （戸田Ｔ）	道徳 （副担）	美術 （黒川Ｔ）	総合 （副担）
6 校時	学活 （副担）	国語 （金山Ｔ）			総合 （副担）

② 生徒によっては、通常学級の授業に出られる教科があるので、生徒の状況に応じて、時間割を変更し、個別に対応する場合もある。

※ある男子生徒の時間割（社会科の授業を所属学級で受けている）

	月　曜	火　曜	水　曜	木　曜	金　曜
1校時	**社会 所属学級**	英語 （白根T）	体育 （諸橋T）	数学 （田子T）	社会 （安部T）
2校時	数学 （鈴木T）	理科 （教頭T）	**社会 所属学級**	英語 （白根T）	国語 （石塚T）
3校時	英語 （白根T）	体育 （諸橋T）	理科 （教頭T）	社会 （戸田T）	**社会 所属学級**
4校時	体育 （諸橋T）	数学 （鈴木T）	技術 （松本T）	数学 （鈴木T）	家庭 （齋藤T）
5校時	数学 （田子T）	社会 （戸田T）	道徳 （副担）	美術 （黒川T）	総合 （副担）
6校時	学活 （副担）	**社会 所属学級**			総合 （副担）

③ 教室の机などの配置については以下の写真のとおりである。2カ所に分け、黒板や、ホワイトボードなどを活用して授業を行っている。

ウ　会議の実施と生徒の変容

① 会議資料

以下の項目内容で、毎月各学年に回覧し、最後に生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、特別支援教育支援員が確認をし、資料を作成している。

年	組	名前	出欠状況	現在の状況	本人の抱える問題	本人の願い	親の願い	親の関わり	担任の関わり	次の目標	今後の方向性

② 事例案

【ある女子生徒】

回数	生徒の様子と対応の報告	会議結果による今後の対応報告
1	○ 入学後１週間まで、学級で生活していた。突然、朝、「家から出られない」との連絡があった。学級の中での生活が苦しいことを訴える。友達との関わりが苦手なようである。大人との関わりは平気のようである。学年の個室で生活する。	○ 関係機関への紹介をする。 ○ 関係機関から医師の受診をすすめてもらうようにする。 ○ 今後の様子を見て個別の指導計画を作成する。 ○ 特別支援学級への入級をすすめる。
2	○ 子どもサポートセンターを紹介し、カウンセラーと親子相談を実施した。 ○ 医療機関を受診する。（自治医大附属病院）自閉傾向であるとの診断。 ○ 栃木市適応指導教室「はばたき」を紹介。〈本人は、学校へ通いたい希望が強い。〉 ○ 特別支援学級への入級は、本人が拒否している。 ○ 「とまり木教室」を親子に説明する。 〈乗り気のようであった。〉	○ 子どもサポートセンターとの関わりは継続する。 ○ 本校のスクールカウンセラーにより心理テストの実施を依頼する。 ○ 短期目標を、「とまり木教室」の生活の軌道に乗せることとする。
3	○ 入級後 （step１）午前８時過ぎ登校。給食を挟み５校時終了後下校。母親送迎。 （step２）10日間経過後、６校時まで延長し帰りの会まで実施する。 ○ メンタルクリニックに通院。（月１回） ○ 子どもサポートセンターにてカウンセリングを受ける。（週１回） ○ ２学年の女子が１名、とまり木教室に入級した。人間関係が不安であったが仲間が増え楽しさが増えた。	○ step２までクリアできているようなので、指導を継続する。 ○ 定期テストを受けているので、評価評定はきちんと出す。
4	○ ２学年女子がさらに１名、とまり木教室に入級。２年生が２人となり、仲間はずれをされるのではと思い込み登校渋りが発生。その不安を解消するため、丁寧に指導した。また、定期テストの結果がよかったことも要因にあると思うが、急に元気を取り戻す。平常の生活に戻る。	○ 機会があれば、体育の授業を見学させてみる。できる限りでよいが自分の学級の授業を参観または参加させてみる。ただし、無理が生じた場合は、即刻中止する。

11	○　特別支援学級へ入級希望。 通常学級との交流授業を希望する教科は、国語、社会、数学、美術、音楽、保体である。通常学級へ移動する際は、教師が送迎する。	○　校長と相談し、４月１日から入級させる。 ○　特別支援学級への交流を行い、生活に慣れさせる。 ○　春休み中に２学年の教室がある３Ｆの空気に慣れさせる。（春休みの登校時間は平常通り）

【ある男子生徒】

回数	生徒の様子と対応の報告	会議結果による今後の対応報告
1	○　２学期運動会終了後あたりから登校渋りが始まった。「クラスの男子に嫌なことを言われるので教室に入れない。」と本人は言っていたが、祖母の話から、「遅くまで起きていて、朝起きられず、登校できない」ことが分かった。担任が週１、２回、朝、家に迎えに行き、登校。1時間だけ教室で授業を受けて下校を繰り返している。ただ、登校できない日が多い。	○　担任からの電話連絡、家庭訪問を継続させる。 ○　今後の様子を見て個別の指導計画を作成する。
2	○　完全に昼夜逆転の生活になり、登校できない日が続く。 ○　栃木市適応指導教室「はばたき」を親子に説明する。 〈本人は、あまり乗り気ではない。〉 ○　定期テストを受けに何とか登校できた。学校は嫌だが、学習には興味関心があることが分かった。 ○「とまり木教室」を親子に説明する。 〈本人が興味をもった。〉	○　まずは、体験という形で、とまり木学級をすすめる。とまり木教室では、学習できる環境が整っていることを改めて説明する。
3	○　入級後 （step1）とまり木に、週２日程度登校。朝から登校し、２時間目終了まで過ごして下校。 （step2）１ヶ月後、登校のペースを週３日に増やすか、学校にいる時間を３時間に増やす。 ○　昼夜逆転の生活は改善されたが、ネット依存傾向。 ○　本人の中で、とまり木より先のことは考えていない。 ○　同学年の男子と人間関係が作れるようになり、楽しそうに過ごすようになった。	○　step１はすぐにクリアできたが、step２は少し厳しいようなので、まずは今の状況を継続させる。 ○　同学年の男子との関係を上手く利用し、お互いに刺激し合いながら、できることを増やしていく。

4	○　２年生になり、週４日ぐらいのペースで、とまり木教室に登校できるようになる。 ○　ＧＷ後、朝起きられず、昼ごろ登校になり、欠席が続くようになる。５月中は、週に２回程度の登校。	○　担任以外の学年の先生にも、積極的に関わってもらうようにする。
5	○　職場体験には参加できたが、５月後半になり登校を渋る。６月から通常学級に入ろうとしていることが、プレッシャーになっているのかもしれない。 ○　６月初めは週に数回遅刻、早退を繰り返し、通常学級には入れず。厳しそうなので、目標を変更。その後は、順調に登校。	○　通常学級で授業を受けるという目標をやめ、毎日とまり木教室に登校するという目標に変更する。（本人に決めさせる方向で。）
8	○　11月から数学、英語以外の教科を少しずつ通常学級で受けるようになる。12月には、ほとんど教室で授業を受けられるようになる。いくつか選択肢を与え、本人に目標を決めさせることで、できることが増えた。	○　担任の関わりの継続。 ○　担任や教科の先生が教室まで送迎。
9	○　３学期はほとんど休みもなく、教室で生活できるようになり、清掃や給食の時間も学級で生活し始めるようになった。	○　春休み中も継続して本人保護者と連絡を取り合い、状況を確認する。

※　３年生になり、一度も登校を渋ることなく通常学級で学校生活を送ることができ、高校に進学することができた。

③　上記事案以外の昨年度の１年間の動向

中学３年男子３名：３名とも高校進学。２名は、他の生徒と同じように卒業式にも参加し卒業証書をもらうことができた。

中学２年男子２名：継続中。

中学１年女子２名：継続中。

④　今年度の現在の状況

男子３名：継続中。１名は、週１回、特別支援学級で国語の授業を受けている。特別支援学級対象の生徒ではあるが、保護者・本人とも拒否をしている。また、１名は、社会の授業は所属学級で受けている。

女子４名：３名は継続中。１名はほとんど登校できていない。２名は、朝から登校し、４時間授業を受け、給食を食べてから下校している。また、１名は週３回のペースを目標に、１日２時間程度授業を受けて下校している。いずれの生徒も、登校を継続できるように、本人のペースで無理をさせないようにしている。

⑶　研究の成果

①　完全不登校であった生徒が、数名登校できるようになった。

②　集団不適応で不登校の生徒が数名適した学級へ戻ることができ、平常な生活が送れるようになった。

③　学年単位での対応だと１～２名での自主学習になっていたが、学年の垣根を取り外し、小集団での生活（学習活動をふくめ）を送らせることで、徐々に人間関係が構築できるようになった。

④　学年単位の対応の多忙さを解消できた。

⑤　個別の指導計画に基づき、生徒の変容を確認しながら、関係機関との連携を図りつつ段階的に指導・支援ができた。

⑥　先生方が学年の垣根を越えて、とまり木に来ている生徒に関わってくれるようになった。

⑦　保護者からの信頼を獲得することができた。

3　今後の課題

⑴　組織体制の維持

特別支援教育支援員の先生の協力が必須である。現在の特別支援教育支援員は本校のとまり木教室設置時から配置されているので、対応になれている。しかし、担当の先生が変わってしまうと、今の状態を維持していくのは、難しいと思われる。

また、授業担当者の時数が増えてしまい、特定の先生の負担が大きくなってしまっているところがある。担当者に任せっきりになってしまい、学年の先生が関わってくれない場合もあるので、そこは、生徒指導主事や特別支援教育コーディネーターが上手くつないでいく必要がある。

⑵　対象生徒の増加に対する対応

常時２名の先生で対応しているが、人数の増加や、他学年で授業内容が異なったり、学力差があったりするため、個別に対応しきれない場面もある。教員を３名体制にするなどの対応を考えていく必要がある。

また、教室に入って頑張れるような生徒については、基本的には、入級を許可しない。先生によっては、教室に入れない生徒はすぐにとまり木教室にという考えの方もいるが、各学年である程度対応していただき、生徒の変容をじっくりと確認しながら、会議を経て慎重に入級させるようにしている。その判断が非常に難しい。一度入級させてしまうと、通常学級に戻すのは、時間がかかり困難になる。

⑶　有意義な会議の実施

ただの情報交換だけで終わらないように、会議ごとに、各学年から１名を抽出し、その生徒の対応について、協議を行うようにしている。毎回、今後の方向性をしっかりと示し、生徒のよい変容につながるようにしている。